

- ・すすんで学ぶ子
- ・きまりを守る子
- ・心身をきたえる子
- ・まじめに働く子
- ・なかよく協力する子



令和元年12月19日号

## 人権教育集中月間

本校では、11月18日(月)～12月13日(金)を〈人権教育月間〉として、自分や友だちの良さや仲良く生活するためにどうしたらよいかを集中的に考える取り組みを行いました。各学級で人権に関するビデオを見たり、道徳の時間に人権教材を学習したりしました。その後、人権に関する作文や人権標語を各自で作成してまとめをしました。

12月11日(水)に全校で人権集会を行い、各学年代表に人権作文を発表してもらいました。各学級代表の人権標語と人権作文などは職員室前の廊下に掲示してあります。学校にお越しの際にご覧下さい。

人権ポスターと人権標語の学校代表は、市の人権作品展に掲示されました。下の作品が学校代表の標語です。



人権集会で作文を発表する



職員室廊下の人権コーナー

ぜひ、ご家庭でも冬休みを機に家族で「人を大切にする」ということについて話題にしてみてください。

優しさあふれる、いじめのない旭小になるようこれからも様々な取り組みを行っていきます。

変わろうよ  
見て見ぬふりの  
自分から  
(六年生代表)

一言で  
ひとりぼっちも  
仲間入り  
(五年生代表)

## 人権のお話

校長講話

9月20日～11月2日の間日本で、世界中の国々から選手が集まってラグビーの世界一を決めるワールドカップが行われました。私は3つのことに感動しました。

1つは、ラグビーのルールです。ほとんどの球技はゴールをめざして前へ前へとボールをパスします。しかし、ラグビーは後ろにいる仲間にパスをします。見えにくい後ろにパスをするには、仲間を信頼するしかありません。また、仲間はボールを持った人を必ず助けに行かなくてはなりません。ここに感動しました。

2つ目は日本代表チームです。ラグビーのチームには、体の大きい人、小さい人、力の強い人、足の速い人などいろいろな人がそれぞれの役割をもっています。日本チームもいろいろな人が助け合いました。しかも、選手は7つの国から集まった人たちです。外国出身の選手も自分の国と同じくらい日本を大事に考え「One Team(ワンチーム)」を合い言葉にまとまり、これまでで最高の結果を出しました。



3つ目は、優勝した南アフリカチームです。南アフリカには、いろいろな人が住んでいました。70年位前に人数は少ないけれどお金持ちのイギリス出身の人たちが、大むかしから住んでいた大勢の黒人を差別する法律をつくりました。黒人は、選挙で投票できない、好きなところに住めない、お給料が安い、黒人と白人は結婚できないなどの差別を受けました。これに反対すると、逮捕されてしまうのです。世界中の反対でこの法律は、少しずつ止められ、ついに1994年黒人も合わせた選挙で黒人のネルソン・マンデラさんが大統領になりました。マンデラさんは、27年間も牢屋に入れられていました。さて、大統領になったマンデラさんは、それまで自分たちを苦しめてきた人たちをどうしたのでしょうか。



マンデラさんは「良い国にするためには、みんなの協力が必要だ」とゆるしました。そして、みんなの協力のお手本としてラグビーを応援しました。

優勝した南アフリカチームのシア・コリシキャプテンは「いろいろな選手がいるチームで勝つことが大切。我々が成功すれば、チームとして一つのゴールをめざせばどんなことでもできるとみんなが知るようになる」と言ってます。

3つに共通する「自分と違う人を認める」「違う人たちが協力し合う」ための秘訣は、相手に対するリスペクト(尊敬する 大切にする)です。みなさんもお互いをリスペクトして良い仲間、良いクラス、良い学校、良い社会にしていきましょう。

